

Express5800/R120h-1M (2nd-Gen), R120h-2M (2nd-Gen)

ご使用時の注意事項

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本製品のご使用において、ご注意いただくことがあります。誠にそれぞれ入りますが、ご使用前に下記内容を必ずご一読ください。

なお、本書は必要なときにすぐに参照できるよう大切に保管してください。

- 1) はじめに
- 2) システムROMの機能に関する注意事項
- 3) iLO 5 の機能に関する注意事項
- 4) OSに関する注意事項
- 5) 全般の機能に関わる注意事項
- A) ファームウェア変更に伴う変更点

1) はじめに

● 本製品のマニュアルについて

本製品に関する詳細は、下記サイトに掲載しているマニュアルに記載しています。

<https://www.support.nec.co.jp/>

「NEC サポートポータル内検索」より、以下の ID で検索してください。

R120h-1M (2nd-Gen) : 3170102287

R120h-2M (2nd-Gen) : 3170102288

また、ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentService、エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス (HTTPS)/エクスプレス通報サービス (MG) に関しては、

ESMPRO 日本語ポータルサイト<<https://jpn.nec.com/esmsm/>>

NEC サポートポータル<<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010102124>>

の最新の情報およびバージョンをご確認のうえ、ご利用ください。

● Starter Packについて

本製品で使用する Starter Pack は、以下 Web サイトに最新版が掲載されています。

Web に掲載されている内容を確認し、バージョン S8.10-007.01 以上を適用してください。

<https://www.support.nec.co.jp/>

(「NEC サポートポータル内検索」より、「S8.10-007」を検索)

● VMware ESXiのドライバ・サービスモジュールについて

本製品で使用する VMware ESXi のドライバ・サービスモジュールは、以下 Web サイトに最新版が掲載されています。Web に掲載されている内容を確認し、適切なバージョンを適用してください。

1. Agentless Management Service および iLO Channel Interface Driver

<https://www.support.nec.co.jp/>

(「NEC サポートポータル内検索」より、「Agentless Management Service」を検索し、【最新版】と表示され「Agentless Management Service および iLO Channel Interface Driver (VMware ESXi 6.x 版(x=5 または 7))」を適用してください)

2. WBEM プロバイダおよび CLI ツール

<https://www.support.nec.co.jp/>

(「NEC サポートポータル内検索」より、「WBEM プロバイダ」を検索し、「【最新版】WBEM プロバイダおよび CLI ツール (VMware ESXi 6.x 版(x=5 または 7))」を適用してください)

3. VMware ESXi デバイスドライバ

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140105866>

(「PC サーバ/ブレードサーバ(Express5800 シリーズ)」から対象 OS の「デバイスドライバ一覧」を選択)

● **本製品の保守作業時間に関して**

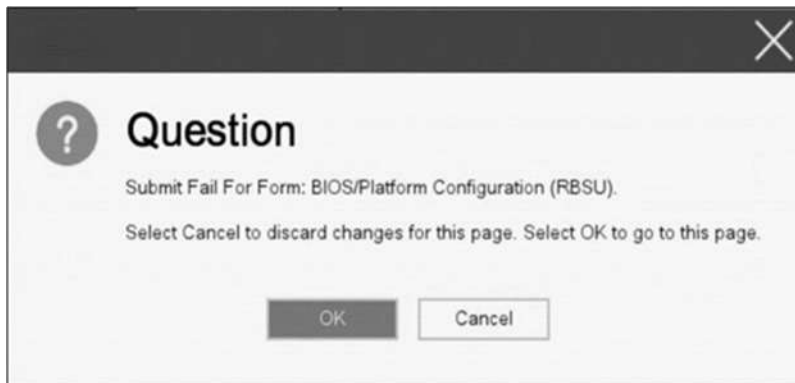
本製品は、障害発生時等に伴う保守作業に際し、保守部材と搭載ファームウェア、ドライバの組み合わせによっては、保守作業に時間を要することがあります。

2) システムROMの機能に関する注意事項

● Submit Fail For FormのQuestion(質問)ポップアップ表示についての注意事項

システムユーティリティにおいて設定の変更中に、次のSubmit Fail For FormのQuestion(質問)ポップアップが表示された場合は、「キャンセル」を選択して変更を破棄してください。

さらに、サーバーの再起動を行ってシステムユーティリティに入りなおしてから設定の変更を再度行ってください。もし「OK」を押してそのまま設定変更を進めると、装置に記録されているSerial Number、Product IDなどの設定情報を消失することがあります。



英語表示の場合



日本語表示の場合

● 赤文字画面(RSOD: Red Screen of Death)が表示された場合の対処について

装置の構成変更や設定変更などシステムの状態を変更した場合や、接続デバイスへのアクセスタイミングにより、OS起動前に稀に赤文字画面(RSOD)が表示され、本製品の操作が出来なくなることがあります。構成変更や設定変更に伴う一過性の事象の場合があり電源OFF/ONによって回復します。

赤文字画面(RSOD)が表示された場合、装置の電源OFF/ONをお願いします。

問題が解決しないときは、保守サービス会社にお問い合わせください。



赤文字画面の例

● 「Memory Initialization Start」のメッセージでPOST停止した場合の対処について

「Memory Initialization Start」のメッセージでPOST停止した場合、システムメンテナンススイッチのSW6によりシステム設定をデフォルト値に戻すことで復旧することができます。

詳細な手順は、メンテナンスガイド「1章(7.4.3 システム設定をデフォルト値に戻す)」の項をご参照ください。

● シリアルコンソールにPOSTデバッグ情報が出力される件について

システム ROM v2.32(03/09/2020)において、POST実行時、まれにPOSTデバッグ情報がシリアルポートに出力され、POST実行時間がおおよそ2分長くなることがあります。

システム ROM v2.34(04/09/2020)では、この問題が修正されています。

● Server Configuration Lock(SCL)についての注意事項

- (1) システム運用中はSCL機能を無効にし、使用しないでください。
- (2) SCL機能有効時に設定するパスワードは大切に保管してください。SCLのパスワードを紛失した状態で、SCL機能によりロック(OSブート前に停止)されると、ロック解除できず、二度とブートできなくなります。

ブート可能状態への復旧/回復は有償にて承ることになります。

なお、SCLのパスワードを紛失した場合、SCLのパスワードをクリアする方法はありません。

- (3) 保守を依頼する際は、SCL機能を無効化していただく必要があります。
SCL機能を無効にできない場合、**保守は有償にて承ることになります。**
- (4) RBSUの「Halt on Server Configuration Lock failure detection.」機能は有効化しないでください。もし有効に設定した場合、SCL機能が回復不能条件の該当を検出し、ロック(OSブート前に停止)されてしまうと、システムユーティリティも起動できず、二度とサーバー構成ロックを無効にすることができません。

ブート可能状態への復旧/回復は有償にて承ることになります。

SCL機能の回復不能条件

- RBSUの設定変更によりロックされた場合
- ファームウェア更新によりロックされ、元のファームウェアバージョンに戻すことができない場合
- DIMM、またはPCIオプションカードの故障によりロックされた場合

● RESTfulインターフェースツールによるRBSU設定のバックアップ(保存)とリストア(復元)の注意事項

iLO5 ファームウェアバージョン 2.40以上の場合、RESTful インターフェースツールを使用したRBSU設定の保存と復元は使用できません。

RBSU設定の保存と復元は、システムユーティリティのBackup and Restore Settingsメニューから行ってください(メンテナンスガイド(共通編)の「システムユーティリティのRBSU設定の保存と復元」を参照)。

● フォールトトレラントメモリ機能(ADDDC)の仕様変更について

本製品の搭載ファームウェアの更新に伴い、フォールトトレラントメモリ機能(ADDDC)の仕様に変更があります。下記、変更点を記載します。

- システムROMのバージョンがv2.04(04/18/2019)以降、CPUあたりDIMM 8枚、もしくはDIMM 12枚以外の構成であっても、フォールトトレラントメモリ機能(ADDDC)が使用できる構成であれば、本機は自動的に設定が変更し、同機能の使用を始めます。
- システムROMのバージョンがv2.10(05/21/2019)以降、各チャネルあたりのRANK数の合計が2以上になるようにメモリを搭載しなくても、フォールトトレラントメモリ機能(ADDDC)は利用できます。
- システムROMのバージョンがv2.10(05/21/2019)以降、フォールトトレラントメモリ機能(ADDDC)が使用可能なDIMMとして、N8102-709が加わります。

● SW RAID有効時、内蔵DVD-ROM(N8151-137/138)が2個表示される件について

システム ROM バージョンが v2. 32 (03/09/2020) 未満の場合、Embedded SATA Configuration 設定(*1)を[Smart Array SW RAID Support]設定時、運用環境により Disk Utilities メニュー(*2)に内蔵 DVD ドライブ情報が2 個表示されます。

どちらのドライブを選択した場合でも同じ内蔵 DVD ドライブの情報が参照できます。

(*1) 「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Storage Options > SATA Controller Options > Embedded SATA Configuration」

(*2) 「System Configuration > HPE Smart Array S100i SR Gen10 > Disk Utilities」

● 工場出荷時の設定について

以下の項目については、工場出荷時に以下のように設定しています。

1. System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Workload Profileを「Custom」に設定。
2. System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Power and Performance Options > Minimum Processor Idle Power Core C-Stateを「No C-states」に設定。
3. System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Power and Performance Options > Minimum Processor Idle Power Package C-Stateを「No Package States」に設定。

● iLOイベントログ(IEL)にIPMI Watchdog Timer Timeoutのログが登録される。

システムROM v2. 62 (03/08/2022)が適用されている場合、かつIPMI Watchdog Timerオプションを「Disabled(出荷時の設定)」に設定している場合、iLOイベントログに下記のIPMI Watchdog Timer Timeoutが登録されることがあります。

以下の手順を実施することで本問題が解消します。

iLO IPMI Watchdog Timer Timeout: Action: None, TimerUse: 0x44, TimerActions: 0x00

イベントクラス: 0x23

イベントコード: 0xB3

復旧手順：

以下の復旧手順1、または2のどちらかを実施していただくことで、本問題が解消できます。

復旧手順1

- (1) 装置の電源を切り、電源コードをコンセントから外す。
- (2) 30秒以上経過したのち、電源コードをコンセントに接続する。

復旧手順2

システムユーティリティより、IPMI Watchdog Timerオプションの設定を2回変更します。

- (1) POST中に<F9>キーを押下し、システムユーティリティを起動する。
- (2) System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Options > Server Availability > IPMI Watchdog Timerオプション を「Enabled」に設定する。
- (3) <F12>キーを押下し、設定を保存してシステムを再起動する。
- (4) POST中に<F9>キーを押下し、システムユーティリティを起動する。
- (5) System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Options > Server Availability > IPMI Watchdog Timerオプションを「Disabled」に設定する。
- (6) <F12>キーを押下し、設定を保存してシステム再起動する。

● システムユーティリティおよびワнтаイムブートメニューの表示について

- (1) BMC Configuration Utility 配下のメニューの変更権限については、BMC Configuration Utility > Setting Option > Require user login and configuration privilege for BMC Configuration を有効にすることで保護してください。
BIOS/Platform configuration (RBSU) > Server Security > Set Admin Password の設定では保護されません。
- (2) System Information > Processor Information で表示される L2 Cache、L3 Cache の Maximum Size、Installed Size は 1MB を 1048576 バイトに換算した数値で表示されます。
- (4) 以下の発生条件を満たす場合、ワнтаイムブートメニューと RBSU の PCIe Device Configuration メニュー(*)に、RAID コントローラ名が正しく表示されないことがあります。RAID コントローラ名表示のみの問題であり、RAID コントローラに搭載されている HDD/SSD からのブートには影響しません。
(*) BIOS/Platform configuration (RBSU) > PCIe Device Configuration

【発生条件】

- ・ N8103-189、N8103-190、N8103-191、N8103-192、N8103-193、N8103-194、N8103-195、N8103-196、N8103-197、N8103-201、N8103-237、N8103-238 の場合
- 以下 2 つの条件をすべて満たす場合、発生します。
1. RAID コントローラファームウェアが v4.11 以上、または v3.01.04.072 以上
 2. システム ROM が v2.68 (07/14/2022) 未満

● PCIe Slot X MCTP Broadcast Support メニューについて (X は PCIe Slot 番号)

システム ROM バージョンが v2.10 (05/21/2019) 以降の装置において、初めて PCIe MCTP Options メニュー(*)を選択した場合、装置のデフォルト設定を強制的に設定する旨のポップアップ(*)が、設定可能な PCIe Slot 数分表示されます。

設定を一度保存すると、次回以降ポップアップ表示はされません。

尚、下記システム ROM バージョンの場合、設定保存時にポップアップ(*)が表示され設定は保存されません。

保存されない事により、本メニューを表示させるたびに PCIe Slot 数分のポップアップ(*)が表示される事になります。この場合、MCTP Broadcast は常に有効で動作します。

- ・ v2.22 (11/13/2019)
- ・ v2.30 (02/11/2020)
- ・ v2.32 (03/09/2020)

*1 : System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > PCIe Device Configuration > Advanced PCIe Configuration > PCIe MCTP Options

*2 :



*3 :



● **Extended Memory Testオプションの設定値について**

システム ROM のバージョンが v2.36 (07/16/2020) の場合、Extended Memory Test オプションは、自動的に Disabled となります。

System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Memory Options > Extended Memory Test

3) iLO 5の機能に関する注意事項

● iLOの再起動を行う場合の注意事項

サーバー起動からOSの起動完了までの間(POST (Power On Self Test)実行中も含みます)は、iLOの再起動を行わないでください。

また、システムユーティリティの操作途中も、iLOの再起動を行わないでください。

該当タイミングでiLOの再起動を行うと、期待しない動作となる場合があります。

たとえばシステムユーティリティの設定変更途中にiLOの再起動(※)を行うと、直後のシステム再起動処理(Reboot)が正常に動作しない場合や、装置に記録されているSerial Number、Product IDなどの設定情報を消失することがあります。また、POST (Power On Self Test)実行中にiLOの再起動を行うと、iLO Webインターフェース: [Information] - [Overview]ページにおけるUUID、UUID(論理)が不正な表示になる場合があります。不正な表示となった場合は、本体装置の電源をオフ、オンしてください。

＜対象となるiLOの再起動の方法＞

- iLO Webインターフェースなどを利用したネットワーク経由でのiLOの再起動。
- UIDスイッチを使用したiLOの再起動。

※ システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での設定変更後のiLOの再起動については、本書の「システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項」を参照して操作してください。


● iLOのダウングレードポリシー機能の注意事項

iLOの拡張ライセンスがインストールされている場合、[Security] - [Access Settings] - [Update Service] - [Downgrade Policy]の設定を『Permanently disallow downgrades』に変更しないでください。

『Permanently disallow downgrades』に設定した場合、ファームウェアのダウングレードを行うことができなくなります。また、iLOに対して永続的な変更が行われるため、『Permanently disallow downgrades』に設定後は、iLOの各種インターフェースや各種ユーティリティから本設定の変更を行おうとしても変更することができません。

なお、本設定はSet to factory defaultsオプションからiLOを出荷時のデフォルト設定に設定を行った場合も、リセットされず『Permanently disallow downgrades』を維持します。

● iLOのセキュリティ機能の注意事項

iLO Webインターフェースの[Information] - [Security Dashboard]およびiLO Webインターフェース画面の右上部に  リスクが常に表示されます。

RBSUの設定やiLOの設定の内容次第で、iLOセキュリティの状態がリスク状態(赤色)で表示されますので、お客様のセキュアポリシーに応じてセキュリティの対処を行ってください。

推奨値などの詳細については、iLO 5ユーザーズガイドを参照してください。

ただし、『Require Host Authentication』設定については、本書内の「システムユーティリティより、Admin Passwordを設定(※1)した場合や、iLO Webインターフェースから、[ホスト認証が必要]設定を有効(※2)に設定した場合の注意事項」に記載がありますので、ご確認ください。

iLO 5ファームウェアのバージョンによって該当する条件が異なります。

iLO 5ファームウェア	該当条件
バージョン 1.40	(※1)、および(※2)
バージョン 1.43以上	(※2)

iLOの負荷の状態により[Information] - [Security Dashboard]の”全体セキュリティステータス”が『リスク』であっても、iLO Webインターフェース画面の右上部の”iLOセキュリティ”アイコンが無色になる場合があります。[Information] - [Security Dashboard]の”全体セキュリティステータス”が現在のセキュリティ状態を示します。

● システムユーティリティより、Admin Passwordを設定(※1)した場合や、iLO Webインターフェースから、[ホスト認証が必要]設定を有効(※2)に設定した場合の注意事項

- (※1) iLO 5 ファームウェアバージョン : 1.43 未満を適用した環境の場合が対象となります。
[System Configuration] - [BIOS/Platform Configuration (RBSU)] - [Server Security]より、Set Admin Password オプションにてパスワードを設定する。
- (※2) iLO ファームウェアバージョン : 1.40 以上を適用した環境の場合が対象となります。
[Security] - [Access Setting] - [iLO]にある[ホスト認証が必要/Require Host Authentication]を『有効』に設定しないでください。

設定を行った場合、次に示す状況が発生します。

- ・アラートビューアに、“Remote Insight/Integrated Lights-Out 認証されないログイン試行検出”のメッセージが多数表示されます。
- ・Starter Pack (Standard Program Package)を適用するとエラーが発生します。

また、次のサービスや機能をご利用頂けません。

- ・エクスプレス通報サービスにおいてハードウェア障害に関する通報
- ・RAID 通報サービス
- ・サーバ診断カルテのハードウェア診断機能
- ・iLO が収集するハードウェアに関するデバイス情報や設定情報の参照、およびイベントログ採取機能

● iLOの時刻についての注意事項

iLO 5ファームウェア1.45以下でiLOのSNTPの設定が無効の場合、iLOの再起動を行うとiLOの時刻がずれてしまう場合があります。

iLO WebインターフェースにてSNTPの設定を行い、ご使用いただくことを推奨します。

iLOのSNTPの設定方法については、iLO 5ユーザーズガイドを参照してください。

● iLO WebインターフェースのUUID不正値表示について

POST (Power On Self Test) 実行中にiLOの再起動を行うと、iLO Webインターフェースの[Information] - [Overview] ページのUUID、UUID(論理)の値が稀に不正な表示となることがあります。

不正な表示となった場合は、本体装置の電源をオフ、オンしてください。

● iLO Webインターフェースのネットワーク情報の表示について

ファイバーチャネルコントローラーが実装されているシステムで、iLO Webインターフェースの言語に日本語が選択されている場合、[システム情報] - [ネットワーク]で表示されるファイバーチャネルコントローラーの“ポートのステータス”が『下へ』と表示されます。

これはファイバーチャネルコントローラーの接続が『ダウン』の状態であることを示しますので、読み替えてご利用ください。

● iLO WebインターフェースのVirtual NIC設定の注意事項

[Security] - [iLO]の“Virtual NIC”のデフォルト値は、iLO5ファームウェアのバージョンにより異なります。BMC構成ユーティリティにて“工場出荷時のデフォルトにセット”を実施した場合は、以下をご確認ください。

- (1) iLO 5ファームウェア : 2.10以上 2.18以下をご使用の場合、デフォルト値は『有効(Enabled)』です。
仮想NICをサポートしていないWindows Server 2012 R2やUSB CDC-EEMドライバがインストールされていないWindows Server 2016/2019/2022上のデバイスマネージャーで「Virtual NIC」が警告表示される場合があります。
[Security] - [iLO]の“Virtual NIC”の設定を『無効(Disabled)』に変更してください。
- (2) iLO 5ファームウェア : 1.40以上 1.47以下、もしくは、2.31以上をご使用の場合、デフォルト値は『無効(Disabled)』です。

● **Windows上でのvEthernet (Hyper-V Virtual Ethernet Adapter)構成時のiLO WebインターフェースのネットワークアダプタのIPv6アドレス表示に関する注意事項**

iLO 5ファームウェア : 2.10以上 2.18以下をご使用の場合、Windows OS上でvEthernet (Hyper-V Virtual Ethernet Adapter) が構成されている場合、iLO webインターフェースの[Information] - [Network] - [Physical Network Adapters]において、構成されている各[Adapter]の[Network Ports]の” IPv6 Address” において正しいIPv6アドレスが表示されない場合があります。vEthernet構成時のIPv6アドレスに関しては、OS上のネットワークアダプタのプロパティにてご確認ください。

● **ネットワークブリッジ構成時のiLO Webインターフェースのネットワーク情報の表示について**

ネットワークをブリッジ設定で構成し、iLO 5ファームウェア2.31以上でご使用の場合、iLO Webインターフェースの[Information] - [Network] - [Physical Network Adapters]に表示される内容がOS上の内容と一致しない場合があります。ブリッジ情報の詳細は、OS上のネットワークアダプタのプロパティにてご確認ください。

● **iLO WebインターフェースのDevice Inventory情報の表示について**

＜SASエキスパンダ(N8116-51)構成時＞

iLO 5ファームウェア:2.31以上をご使用の場合、iLO Webインターフェースの[Information] - [Device Inventory]において、SASエキスパンダカードの表示情報が以下のように表示される場合がありますが、サーバの運用およびSASエキスパンダカードの動作に影響はありません。

- Firmware Version : N/A
- Status : Disabled

● **物理ドライブのステータス変更時のSNMPトラップ通知のロケーション情報欠損に関する対処について**

物理ドライブのステータス変更時のSNMPトラップ通知において、ロケーション情報が欠損する場合があります。ロケーション情報に関しては、iLO 5 webインターフェースの[情報]-[インテグレートドマネジメントログ]で同じイベントのロケーション情報をご確認ください。

例:

Abnormal, physical drive status change detection, iLO SNMP Trap, mgr_WIN-U6HIHPNIH1Q, uru-rhel83, 192.168.0.57, , 2021/10/01 15:22:57, iLO, 0xc0000be6, "A physical drive status change has been detected. Current status is 3. (Location: ot 12 Controller: Slot 12)", "If the physical drive status is 'failed(3)', 'predictiveFailure(4)',

● **iLO Webインターフェイスのストレージ情報に関する注意事項について**

iLO5ファームウェア 3.00以降をご使用の場合:

サーバー再起動後に、iLO 5 Webインターフェイスで [システム情報]-[ストレージ]タブをクリックすると、以下のメッセージが表示され、RAIDコントローラや、ドライブ情報等のストレージ情報が表示されない場合があります。

"Failed to retrieve complete storage device information. Refresh the page in a few minutes. "

上記メッセージがストレージ情報ページに表示された場合、iLOリセットを行ってください。

● iLO Webインターフェースのセキュリティダッシュボードの注意事項

iLO 5ファームウェア1.43以上、2.10未満をご使用の場合、[Information] - [Security Dashboard]に[Last Firmware Scan Result]が表示されますが、本ハイパーリンクをクリックしないでください。

誤ってクリックした場合、Webページ内のメニュー間移動が出来なくなります。その場合、ブラウザーのリロードボタンをクリックするか、もしくはいったんiLO Webインターフェースのログアウトを実行して再度ログインしてください。

情報 - セキュリティダッシュボード

概要 セキュリティダッシュボード セッションリスト iLOイベントログ インテグレートドマネジメントログ

Active Health Systemログ 診断

全体セキュリティステータス: OK

セキュリティ状態: 本番環境
サーバー構成ロック: Disabled

セキュリティパラメーター	↓ステータス	状態	無視
セキュリティオーバーライドスイッチ	♥ OK	Off	<input type="checkbox"/>
IPMI/DCMI over LAN	♥ OK	無効	<input type="checkbox"/>
最小パスワード長	♥ OK	OK	<input type="checkbox"/>
iLO RBSUへのログイン要求	♥ OK	有効	<input type="checkbox"/>
認証失敗ログ	♥ OK	有効	<input type="checkbox"/>
セキュアブート	♥ OK	有効	<input type="checkbox"/>
パスワードの複雑さ	♥ OK	有効	<input type="checkbox"/>
ホスト認証が必要	♥ OK	無効	<input type="checkbox"/>
最新のファームウェアスキャン結果	♥ OK	OK	<input type="checkbox"/>

日本語表示の場合

Information - Security Dashboard

Overview Security Dashboard Session List iLO Event Log Integrated Management Log

Active Health System Log Diagnostics

Overall Security Status : OK

Security State: Production
Server Configuration Lock: Disabled

Security Parameter	↓Status	State	Ignore
Security Override Switch	♥ OK	Off	<input type="checkbox"/>
IPMI/DCMI Over LAN	♥ OK	Disabled	<input type="checkbox"/>
Minimum Password Length	♥ OK	OK	<input type="checkbox"/>
Require Login for iLO RBSU	♥ OK	Enabled	<input type="checkbox"/>
Authentication Failure Logging	♥ OK	Enabled	<input type="checkbox"/>
Secure Boot	♥ OK	Enabled	<input type="checkbox"/>
Password Complexity	♥ OK	Enabled	<input type="checkbox"/>
Require Host Authentication	♥ OK	Disabled	<input type="checkbox"/>
Last Firmware Scan Result	♥ OK	OK	<input type="checkbox"/>

英語表示の場合

● iLO WebインターフェースのAgentless Management Service (AMS)のステータスについて

iLO Webインターフェースの[System Information] - [Summary] - [Subsystem and Devices]のAgentless Management Service (AMS)のステータスにおいて、不明(または利用不可能)※と表示された場合、iLOリセットを行ってください。また、その後、10分程度経過した後、以下のAgentless Management Service (AMS)の再起動方法の対象OSを参考に、Agentless Management Service (AMS)を再起動してください。

※ Agentless Management Service (AMS)のステータスが不明(または利用不可能)の状態の場合、iLO Webインターフェースの[System Information] - [Storage] や [Network]の一部の情報が取得できず、正しく表示されません。

< Agentless Management Service (AMS)の再起動方法 >

○ Windowsの場合

Windowsの管理ツール → サービス → “Agentless Management Service” を右クリックし、再起動してください。

○ Red Hat Enterprise Linux 7.x/8.xの場合

以下のコマンドを実行します。

```
# systemctl restart smad
# systemctl restart amsd
```

○ ESXi6.5/6.7の場合

以下のコマンドを実行します。

```
# /etc/init.d/amd.sh restart
もしくは
# /etc/init.d/ams.sh restart
```

※ お使いのAMSバージョンによりコマンドが異なります。

○ ESXi7.0の場合

以下のコマンドを実行します。

```
# /etc/init.d/amd restart
```

● iLO5 Ver2.65以降の注意点

iLOwebインターフェースの「システム情報」>「デバイスインベントリ」で BackPlane (BP) の位置情報が不正になる場合がありますが表示だけの問題で動作に影響はありません。

正常時) Slot=#:Port=#I:Box=# ※#は接続先により番号が変わります。

不正時) Slot=#:Port=?I:Box=? 数字の部分が?と表示されます。
 または Box=# Box のみ表示されます。

● Java IRCのセッションタイムアウト時に表示に関する注意事項について

Java統合リモートコンソール(Java IRC)起動中にリモートコンソールのセッションが切れた場合に、セッションが切れたことを示すポップアップと一緒にセッション切れとは直接関係のない内容のポップアップも表示されます。

Java IRC のセッションが切れた場合には、IRCの下部に以下のメッセージが表示されます。本メッセージが表示されている場合には、表示されているポップアップの内容は無視してください。

■ “セッションはタイムアウトか認識されないアクセスによって閉じられました。”

● Rapid Setup実行に関する注意事項について

iLO5ファームウェア2.71または2.72をご使用の場合:

Smartアレイ SW RAID構成時に、POST 時に[F10]キー押下 > Provisioning > EXPRESSBUILDER からRapid Setupを実行する際は、事前にiLO Webインターフェースの[System Information] - [Device Inventory]で、Smart Array S100i SRのStatusが” Enabled” になっていることを確認してください。

Statusが” Unknown” と表示されている状態で、Rapid Setupを実行すると” 推奨されるRAID構成を準備中…” の表示の後に以下のメッセージが表示される場合があります。

- “Rapid Setupは、このシステムに設置されているサポート対象ディスクを見つけられませんでした。ディスクが設置されていないか、ケーブル接続などの別の問題があります。Rapid Setupを終了し、ハードウェア構成を確認してください。”

● サーバー再起動時のFAN高速化に関する注意事項について

iLO5ファームウェアバージョン2.90以降をご使用の場合:

サーバーの再起動を行うと、稀にFANの高速回転やうなり音が7分以上継続する場合があります。

この場合は、再度サーバーの再起動を実施してください。

● 通報に関する注意事項について

iLO5ファームウェアバージョン3.00以降をご使用の場合:

ESMPRO/ServerManagerをご利用されている場合、物理ドライブの状態変化に伴い、アラートビューアにおいて「物理ドライブのステータス変化検出」のアラートが表示されます。

この際、物理ドライブのステータスに応じて、ロケーション情報が以下の二パターンのいずれかで表示されます。

- ① (Location: Slot=(A) :Port=(B) :Box=(C) :Bay=(D) Controller: <NULL>)
- ② (Location: Port=(B) :Box=(C) :Bay=(D) Controller: Slot (A))

A:コントローラの位置(スロット番号)

B:物理ドライブのポート番号

C:物理ドライブのボックス番号

D:物理ドライブのベイ番号

4) OSに関する注意事項

● EXPRESSBUILDERでのWindows「手動」インストールについて

EXPRESSBUILDER から Windows をインストールするとき、「手動」オプションを選択した場合であっても、インストール先ディスクのパーティションがすべてクリアされます。再インストール時、ユーザーデータが存在する場合は注意してください。

● Windows Server OS ご使用時の注意事項

サポート対象の Windows Server OS で USB デバイスをお使いの場合、以下のシステムイベントログが採取されることがあります。

これについては、システム動作上問題ありません。

<イベントログ>

ID : 1
ソース : VDS Basic Provider
レベル : エラー
説明 : 予期しないエラーが発生しました。エラーコード:32@01000004

● Windows Server環境でのAgentless Management Service(AMS)の注意事項

Windows Server 2012 R2, Windows Server 2016, Windows Server 2019の環境にAgentless Management Service (AMS) version 1.40.0.0がインストールされている場合、ams.exeプロセスがハンドル数の増加を示します。ハンドルリークはメモリの過剰消費により時間の経過とともにパフォーマンスの問題を引き起こす可能性があります。

◆本件事象はAgentless Management Service (AMS) 1.43.0.0で修正されています。

AMSはStarter Packに含まれています。Starter Pack Version S8.10-006.03以降を適用してください。

すでにAMS 1.40.0.0がインストールされている環境でStarter Pack Version S8.10-006.03を使用する場合は、個別にAMSをアップデートする必要があります。Starter Packが掲載されているWebの内容を確認してアップデートしてください。

◆Agentless Management Service (AMS) 1.40.0.0を使用される場合は、一度以下の手順を実施することでハンドル数は増加しなくなります。

1. 以下のコマンドをコマンドプロンプトで実行してAMSを停止します。
>net stop ams
2. "C:\Program Files\OEM\AMS\Service"フォルダをエクスプローラで開きます。
3. "storelib.dll"のファイル名を"storelib.dll.bak"に変更します。
4. 以下のコマンドをコマンドプロンプトで実行してAMSを開始します。
>net start ams

(※1) AMS停止時に以下のメッセージが表示されることがありますが問題ありません。

Agentless Management Service サービスを停止中です..

システム エラーが発生しました。

システム エラー 1067が発生しました。

プロセスを途中で強制終了しました。

Agentless Management Service サービスは正常に停止されました。

(※2) AMS起動時に以下のメッセージが表示されることがありますが問題ありません。

要求したサービスは既に開始されています。

◆Agentless Management Service (AMS) のバージョンの確認方法には以下の2つの方法があります。

・対象装置のOS上で確認する方法

(1) Windows PowerShellを起動して以下のコマンドを実行します。

> Get-WmiObject Win32_Product | Select-Object Name, Version | Select-String "Agentless Management Service"

(2) コマンド実行結果からバージョンを確認します。

- ・ iLO Web インターフェースを利用して、リモートから確認する方法
 - (1) リモート環境において、WebブラウザからiLO Web インターフェースにログインします。
 - (2) 左メニューの「ファームウェア & OSソフトウェア」を選択し、「ソフトウェア」を選択します。
 - (3) 画面の「Product Related Software」の「ams.exe」のバージョンを確認します。

● ESMPRO/ServerManager (Windows版)およびエクスプレス通報サービス(MG)に関する注意事項

本製品の iLO ファームウェアバージョンと、ESMPRO/ServerManager (Windows 版)およびエクスプレス通報サービス(MG)のバージョンの組み合わせによってはESMPRO/ServerManager (Windows 版)および iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイルのアップデートが必要になる場合があります。

以下をご参照のうえ、アップデートが必要な場合は、最新バージョンにアップデートしてください。

各バージョンの確認方法については、本注意事項の末尾に記載します。

◆ESMPRO/ServerManager (Windows 版)に関する発生現象

iLO ファームウェア	ESMPRO/ ServerManager (Windows 版)	発生現象
Version 2.10 以上	Version 6.25 未満	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構成タブ - サーバー状態 “SNMP 通報設定” が “取得に失敗しました” と表示される ・ リモート制御タブ - iLO 情報 - IML の表示、IML の保存 IML 情報の取得に失敗し、表示および保存ができない ・ アラートビューア ファームウェアアップデートにともない追加されたハードウェアの障害がアラートビューアに “不明タイプ” のアラートとして表示される
	Version 6.47 未満	<ul style="list-style-type: none"> ・ アラートビューア ファームウェアアップデートにともない追加されたハードウェアの障害がアラートビューアに表示されない、もしくは “不明タイプ” のアラートとして表示される

◆ESMPRO/ServerManager (Windows 版)のアップデート方法

- (1) 以下より最新版の ESMPRO/ServerManager をダウンロードします。
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010103524>
- (2) 「ESMPRO/ServerManager Ver.6 インストールガイド(Windows 編)」の「2 章 インストール」を参照して ESMPRO/ServerManager をアップデートします。

◆iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイル に関する発生現象

※エクスプレス通報サービス(MG)をご利用されている方が対象です。

iLO ファームウェア	iLO 管理機能向けの 受信情報設定 ファイル	発生現象
Version 2.10 以上	ilo_jp.mtb Version 1.4.0 未満	ファームウェアアップデートにともない追加されたハードウェアの障害を検知することができない。当該障害を通報することができない。 ※受信情報設定ファイルをアップデートした場合であっても、ESMPRO/ServerManager がアップデートされていないときは、上記と同様に追加されたハードウェア障害の検知および通報ができない。
	iml_jp.mtb Version 1.5.0 未満 ※iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイルは2種類あります。	

◆iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイルのアップデート方法

- (1) 以下より最新版の受信情報設定ファイル(ilo_jp.mtb、iml_jp.mtd)をダウンロードします。
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010100096>
ilo_jp.mtb、iml_jp.mtd は MGMTB.zip に包含しています。

- (2) 「エクスプレス通報サービス(MG) インストールガイド(Windows 編)」の「3.1.5 受信情報の設定」

- または「3.2.4 受信情報の設定」を参照して受信情報の設定画面で登録済みの受信情報を削除します。
- (3) (1)でダウンロードした最新版の受信情報設定ファイルを登録します。
「エクスプレス通報サービス (MG) インストレーションガイド (Windows 編)」は以下の URL からダウンロードしてください。
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010102124>

◆ iLO ファームウェアのバージョン確認方法

- ・ Server Health Summary で確認する方法
サーバー本体の UID ボタンを押下して、サーバーに接続されたコンソールに表示される iLO Firmware のバージョンを確認します (Server Health Summary の詳細は iLO 5 ユーザーズガイド参照)。
- ・ ネットワーク経由で確認する方法
iLO にネットワーク接続可能な場合、ブラウザから iLO にログインして、メニュー「ファームウェア & OS ソフトウェア」から iLO のバージョンを確認します。

◆ ESMPRO/ServerManager (Windows 版) のバージョン確認方法

- (1) ESMPRO/ServerManager の WEB にログインします。
- (2) 画面右上の「ESMPRO/ServerManager について」のリンクを選択します。
- (3) 表示される ESMPRO/ServerManager のバージョン情報を確認します。

◆ iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイルのバージョン確認方法

「エクスプレス通報サービス (MG) インストレーションガイド (Windows 編)」の「3.1.5 受信情報の設定」または「3.2.4 受信情報の設定」を参照して受信情報の設定画面で「詳細情報」が「iLO SNMP Trap」のバージョンを確認します。

● VMware ESXi を使用する場合の注意事項

ESXi 起動時の VMware vSphere の監視 > ハードウェア > システムセンサー > センサーの表示について。

- ① 非冗長 FAN 構成において ESXi 起動完了後、下記のセンサーの健全性 (vCenter : ステータス) の表示が『警告 (黄色)』となる場合がありますが、ハードウェアの故障を示すものではなく運用に影響ありませんので、そのまま運用いただけます。
- Cooling Unit 1 Fans
- ② ESXi 起動完了後、下記のセンサーの健全性 (vCenter : ステータス) の表示が『?』となる場合がありますが、ハードウェアの故障を示すものではなく運用に影響ありませんので、そのまま運用いただけます。
- System Chassis 1 UID

● VMware ESXi で TPM キットを使用する場合の注意事項

システム ROM のバージョンが v2.00 (02/02/2019) 以降、かつ TPM キット (N8115-35) が搭載されている場合 TPM Mode (*1) は「TPM 2.0」にて、VMware ESXi をご使用ください。
もし、TPM Mode が「TPM 1.2」に設定されている場合、稀に PSOD (Purple Screen of Death) が発生することがあります。

- (*1) 出荷時の初期設定は「TPM 2.0」です。

TPM Mode の確認および設定変更は下記メニューより確認してください。

- ・ System Utilities > System Configuration > RBSU > Server Security > Trusted Platform Module Options > Current TPM Type (設定確認)
> TPM Mode Switch Operation (設定変更)

● RAID 監視通報方式の変更について

VMware ESXi において、N8103-189/190/191/192/193/194/195/196/201/237/238/240 RAID コントローラと N8103-239 OS ブート専用 SSD ボードをご使用されている場合、RAID 監視通報は SNMP Trap による通報に変更になります。

詳細は、下記の Web サイトをご確認ください。

- ・ NEC サポートポータル

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140108419>

● Linux OSを使用する場合の注意事項

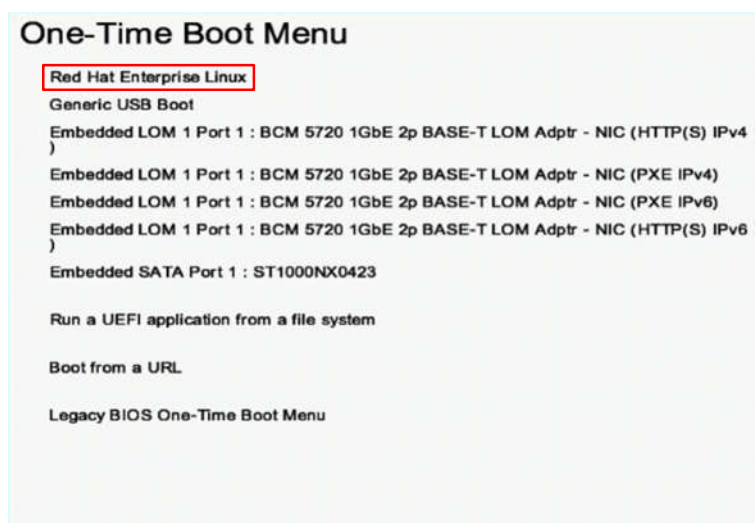
OSが自動的に認識するLOMやオプションNICのデバイス名を使用してください。独自udevルールを追加する際、PCIアドレスを基準にNICデバイス名を変更したり、固定したりする設定は行わないでください。また、PCIアドレスを含む/dev/disk/by-path/配下のストレージデバイス名は使用しないでください。

PCIアドレスを基準にしたデバイス名を使った運用が必要な場合は、PCIスロットへのカード増設/抜去、および、CPU構成変更を行わないでください。PCIバスのアドレス情報が変化し、PCI接続のデバイス名に影響がでることにより、ネットワークやストレージへのアクセスができなくなり、システムが正常に起動できなくなる場合があります。

● Red Hat Enterprise Linux 8.5 以前を使用する場合の注意事項

ワンタイムブートメニューから起動する場合、OSブートマネージャー(例: Red Hat Enterprise Linux)を選択してください。

OSがインストールされたHDDやSSDなどのブートデバイスを選択した場合、Red Screen of Death (RSoD)が発生することがあります。



ワンタイムブートメニュー画面

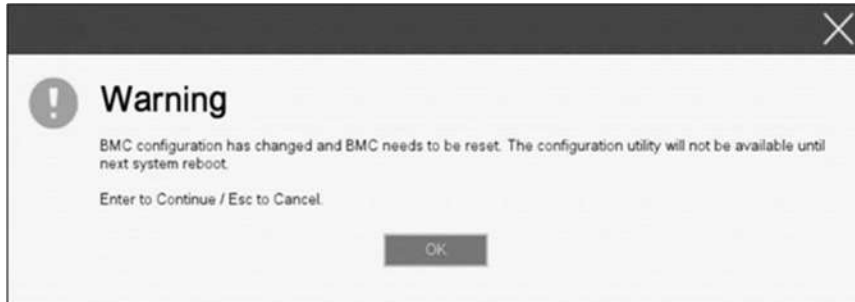
5) 全般の機能に関わる注意事項

● システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項

システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での操作において、以下の(1)のポップアップが表示された場合は(2)以降の手順を厳守してください。

注意事項に従った操作を実施されない場合、「Memory Initialization Start」のメッセージでPOST停止、あるいは、装置に記録されているSerial Number、Product IDの消失が発生する場合があります。

- (1) システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」において設定の変更を行うと、iLOの再起動を行うために、次のWarning(注意)ポップアップが表示されることがあります。



英語表示の場合

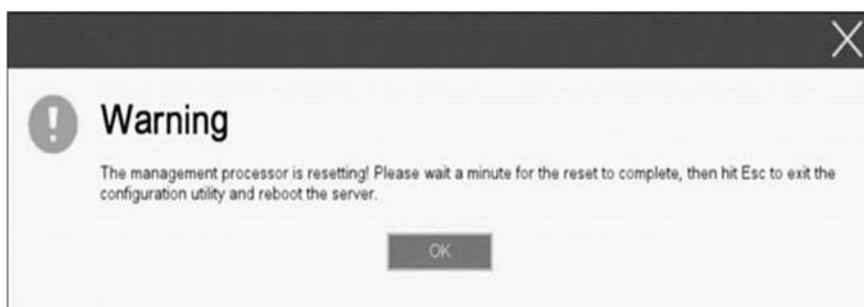


日本語表示の場合

- (2) 「OK」を押して進めます。

- (3) 次のWarning(注意)ポップアップの表示されます。

このWarning(注意)ポップアップが表示されている状態にて、**必ず1分以上お待ちください。**
その間、何も操作しないでください。



英語表示の場合



日本語表示の場合

- (4) 1分以上経過後、装置前面のステータスランプが緑色で点灯していることを確認してください。
 ※ iLOが再起動中 : ステータスランプが緑色で点滅 (毎秒1回)
 iLOの再起動が完了し正常動作 : ステータスランプが緑色で点灯
- (5) 再起動の完了が確認できたら、「OK」を押してください。
- (6) <ESC>キーを複数回押してシステムユーティリティの画面に戻ります。
- (7) システムユーティリティの「Reboot the System」を選択して再起動します。

● Serial Number、Product ID が消失された場合の対処について

Serial Number、Product IDが消失された場合、以下の手順にて復旧することができます。

- (1) 装置の電源を切り、電源コードをコンセントから外します。
- (2) 30秒以上経過したのち、電源コードをコンセントに接続します。
- (3) POWERスイッチで装置の電源をONにします。
- (4) サーバーが起動し、POST画面が表示されます。
- (5) <F9>キーを押してシステムユーティリティを起動します。もし、システムユーティリティが起動できない状態になっている場合は、「1章(7.4.3 システム設定をデフォルト値に戻す)」を参照し、システムメンテナンススイッチを操作して、RBSU設定の初期化をします。
- (6) システムユーティリティの「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Advanced Options > Advanced Service Options」メニューより、Serial NumberとProduct IDの値を確認します。
- (7) Serial NumberとProduct IDの値が期待する値の場合は、手順14)に進みます。
- (8) Serial NumberとProduct IDの値が期待する値ではない(消失している)場合は、システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Default Options」を選択します。
- (9) 「Restore Default Manufacturing Settings」を選択します。
- (10) 「Yes, restore the default settings.」を選択します。
- (11) 自動的に装置が再起動し、POST画面が表示されます。
- (12) <F9>キーを押してシステムユーティリティを起動します。
- (13) 装置のスライドタグに記載されているSerial NumberとProduct IDをシステムユーティリティの「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Advanced Options > Advanced Service Options」メニューより、設定します。



【重要】Product IDとは、『N8100-2773Y』のような型番のことです。

- (14) RBSU設定項目をデフォルト値から変更されている場合は、そのRBSU項目の確認と再設定をします。

● UPS 接続時の注意事項

- ・ UPS をシリアルポートに接続して使用する場合は、以下の設定を無効「Disabled」にしてください。

- (1) System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Options > Serial Port Options > BIOS Serial Console and EMS > BIOS Serial Console Port を「Disabled」に設定してください。
- (2) System Configuration > BMC Configuration Utility > Setting Options > Serial CLI Status を「Disabled」に設定してください。

- ・ N8181-160(電源ユニット[800W/Platinum])を冗長構成で搭載している場合、以下の設定を変更してください。

System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Power and Performance Options > Advanced Power Options へと進み、「Redundant Power Supply Mode」を「High Efficiency Mode (Auto)」に設定してください。

※ High Efficiency Mode (Odd Supply Standby)、または、High Efficiency Mode (Even Supply Standby)に設定されているお客様については、上記の変更は不要です。

● N8116-51 SAS エキスパンダカード使用時の注意事項

Starter Pack Version S8.10-009.01 に含まれている、N8116-51 SAS エキスパンダカードの下記ファームウェアアップデートモジュール (Ver. 5.08) は、適用しないでください。

[パッケージ名称]

Supplement Update / Online ROM Flash Component for Linux (x64) ? HPE 12Gb/s SAS Expander Firmware for HPE Smart Array Controllers and HPE HBA Controllers
(firmware-smartarray2de15b6882-5.08-1.1x86_64)

詳細につきましては、以下の Web サイトに掲載されている内容を確認してください。

[Starter Pack Version S8.10-009.01]

<https://www.support.nec.co.jp/>

(「NEC サポートポータル内検索」より、「S8.10-009」を検索)

● 冷却設定の変更について

以下のオプションを搭載する場合は、安定稼働のため本製品の冷却ファンの設定を「Increased Cooling」へ変更してください。

既に冷却ファンの設定を「Increased Cooling」または「Maximum Cooling」に設定されている場合は、本対策を行う必要はありません。

対象オプション

- ・ N8150-551 増設用 300GB HDD
- ・ N8150-552 増設用 600GB HDD
- ・ N8150-553 増設用 900GB HDD
- ・ N8150-602 増設用 900GB HDD

◆設定手順

- (1) POST 中に <F9>キーを押下し、System Utilities を起動します。
- (2) System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Advanced Options > Fan and Thermal Options を選択します。
- (3) Thermal Configuration メニューを 「希望する設定」に変更します。
- (4) <F12>キーを押下し、設定を保存してシステムを再起動します。

※ 冷却ファン設定の変更に伴い、お客様の運用環境や負荷によっては冷却ファンの回転数が上がることがあります。

● N8103-184 SAS コントローラ ご使用時の注意事項

N8103-184 SASコントローラを使用する場合、iLO Webインターフェースの[System Information] - [Storage] - [Storage Controller]のStatusが“不明(Unkown)”と表示される場合がありますが動作に影響はありません。

● EXPRESSBUILDER ヘルプについて

EXPRESSBUILDER のヘルプとメンテナンスガイドで記述が異なる場合は、メンテナンスガイドの記載を優先してください。

● サーバ診断カルテについて

サーバ診断カルテは、対象製品の稼働状況を記録し、月ごとに稼働状態の診断カルテを提供するサービスです。サーバ診断カルテの詳細は、Starter Pack内の「サーバ診断カルテ セットアップガイド」を参照してください。

サーバ診断カルテの注意事項については下記の Web サイトをご確認ください。

■Windows 対応版

NEC サポートポータル (Windows 対応版)

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?&id=9010106809>

■VMware ESXi 対応版

NEC サポートポータル (VMware ESXi 対応版)

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?&id=9010107805>

● ディスプレイポートについて

装置前面のディスプレイポートの動作は、サポートしていません。

● ドキュメントの型番読み替えについて

末尾が HnY (n は数字)で終わる型番の装置に添付されているドキュメント(ユーザーズガイド、メンテナンスガイド)では、記載されている N 型番に Hn を付加して読み替えてください。

例 : N8100-2773Y → N8100-2773H1Y

● Express5800/R120h-1M、Express5800/R120h-2M ユーザーズガイドについて

ユーザーズガイドに誤記がありましたので、以下に訂正いたします。

	誤	正
サポートOS	VMware ESXi™ 6.7 Update1 以降	VMware ESXi™ 6.7 Update2 以降
搭載CPU	Xeon Gold 6234 Processor (3.40 GHz, 8C/16T, TDP 130W, DDR4 2933 1TB)	Xeon Gold 6234 Processor (3.30 GHz, 8C/16T, TDP 130W, DDR4 2933 1TB)

A) ファームウェア更新に伴う変更点

本製品の搭載ファームウェアの更新に伴い、メニューの一部に変更があります。

下記、変更点を記載します。

(1) Server Availabilityメニュー

システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Options > Server Availability」を選択すると、「Server Availability」メニューが表示されます。

追加のオプションについて、次の表を参照してください。

項目	パラメーター	説明
IPMI Watchdog Timer (注1)	[Disabled] Enabled	IPMI に準拠した起動時の (POST) ウォッチドッグタイマー (WDT) を有効にできます。このタイマーは、ユーザーがシステムに対して IPMI コマンドを発行すると無効になり、自動的には無効になりません。 IPMI ウォッチドッグタイマー (WDT) は、POST 中に <F9> キー、または <F10> キーを押すと停止できます。 POST 中の <F9> キー、または <F10> キーを押した以外の場合、WDT は選択された IPMI ウォッチドッグタイマーのタイムアウト期間の後にタイムアウトし、システムは選択された IPMI ウォッチドッグタイマー動作を続行します。
IPMI Watchdog Timer Timeout (注1)	10 Minutes 15 Minutes 20 Minutes [30 Minutes]	サーバーのロックアップが発生した場合にサーバーに対して必要なタイムアウト動作を実行するまでの待機時間を設定できます。
IPMI Watchdog Timer Action (注1)	[Power Cycle] Power Down Warm Boot	サーバーのロックアップによってウォッチドッグタイマーが時間切れになったときのタイムアウト動作を設定できます。

[]: 出荷時の設定

注1: システム ROM Version 2.54 以降にて利用できるオプションです。

(2) Power and Performance Options メニュー

システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Power and Performance Options」を選択すると、「Power and Performance Options」メニューが表示されます。

追加のオプションについて、次の表を参照してください。

項目	パラメーター	説明
Energy Performance Preference	[Disabled] Enabled	このオプションを使用して、エネルギーパフォーマンス優先を有効または無効にします。

[]: 出荷時の設定

注1: システム ROM Version 2.80 以降にて利用できるオプションです。

(3) Advanced Performance Tuning Optionsメニュー

システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Power and Performance Options > Advanced Performance Tuning Options」を選択すると、「Advanced Performance Tuning Options」メニューが表示されます。

追加のオプションについて、次の表を参照してください。

項目	パラメーター	説明
Processor Jitter Control Optimization	Optimized for Throughput Optimized for Latency [Zero Latency]	本オプションは指定ある場合をのぞいて、出荷時設定から変更しないでください。 このオプションは、プロセッサ周波数変動の自動調整機能の閾値を最適化します。 「Optimized for Throughput」を選択すると、総合的な計算処理能力に影響しない変動を許容した制御をします。 「Optimized for Latency」を選択すると、プロセッサ周波数を下げるときに微小変動があることを許容した制御をします。 「Zero Latency」を選択すると、周波数変動を取り除くように制御します。

[]: 出荷時の設定

(4) Server Securityメニュー

システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Server Security」を選択すると、「Server Security」メニューが表示されます。

追加のオプションについて、次の表を参照してください。

項目	パラメーター	説明
UEFI Variable Access Firmware Control (注1)	[Disabled] Enabled	オペレーティングシステムなど他のソフトウェアによる特定のUEFI変数の書き込みを、システムBIOSで完全に制御できるように設定します。「Disabled」が選択されている場合は、すべてのUEFI変数が書き込み可能です。「Enabled」が選択されている場合、システムBIOS以外のソフトウェアによって重要なUEFI変数に加えられる変更はすべてブロックされます。例えば、オペレーティングシステムが新しいブートオプションをブート順序の最上位に追加しようとする、実際にはブート順序の最下位に配置されます。注記: UEFI変数アクセスのファームウェアコントロールが有効になっている場合、オペレーティングシステムの機能の一部が期待どおりに動作しないことがあります。新しいオペレーティングシステムのインストール中にエラーが発生する場合があります。

[]: 出荷時の設定

注1: システムROM Version 2.54以降にて利用できるオプションです。

(5) Advanced Trusted Platform Module Optionsメニュー

システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Server Security > Trusted Platform Module Options > Advanced Trusted Platform Module Options」を選択すると、「Advanced Trusted Platform Module Options」メニューが表示されます。

追加のオプションについて、次の表を参照してください。

項目	パラメーター	説明
Omit Boot Device Event	[Disabled] Enabled	ブートデバイスイベント省略の記録を設定します。「Enabled」に設定すると、PCRブート試行の測定が無効になり、PCR[4]での測定が記録されなくなります。

[]: 出荷時の設定

注1: システムROM Version 2.80以降にて利用できるオプションです。

(6) Advanced PCIe Configurationメニュー

システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > PCIe Devices Configuration > Advanced PCIe Configuration」を選択すると、「Advanced PCIe Configuration」メニューが表示されます。

追加のメニューについて、次の表を参照してください。

項目	パラメーター	説明
PCIe MCTP Options	-	-

① PCIe MCTP Optionsメニュー

システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > PCIe Devices Configuration > Advanced PCIe Configuration > PCIe MCTP Options」を選択すると、「PCIe MCTP Options」メニューが表示されます。

追加のオプションについて、次の表を参照してください。

項目	パラメーター	説明
PCIe Slot XX MCTP Broadcast Support	[Enabled] Disabled	指定されたスロットのPCIe管理コンポーネント転送プロトコル(MCTP)を制御します。 このオプションは、PCIeエンドポイントに対するMCTPサポートを無効にするために使用します。このオプションはシステムの全機能に対して有効に設定することを推奨します。 XX: 1/2/3... (CPU数やライザーカード種類に応じて表示が変わります。)

[]: 出荷時の設定

■本件に関するお問い合わせについて

本書の内容に不明点がありました場合は、下記ファーストコンタクトセンターまでお問い合わせください。

お問い合わせ先：ファーストコンタクトセンター

T E L : 0120-5800-72

受付時間 : 9:00~12:00 13:00~17:00 月曜日~金曜日(祝日を除く)

※番号をお間違えにならないようお確かめのうえお問い合わせください。

NEC

2024年2月 第17版

Precautions for Using Express5800/R120h-1M (2nd-Gen), R120h-2M (2nd-Gen)

Thank you for purchasing our products.

This document provides the precautions on the use of this product.

Please read through the instructions below and keep this document in a safe place for your future reference.

- 1) Introduction
- 2) Notice about the function of the System ROM
- 3) Notice about the function of the iLO5
- 4) Notice about the OS
- 5) Notice of the function in general
- A) The additional options by firmware update

1) Introduction

● About the manual of this product.

For Starter Pack, the user's guide and the other related documents of this product, please refer to Download on the following URL. Regarding Starter Pack, it is also provided as an optional product.

< <https://www.58support.nec.co.jp/global/download/> >
-> Document & Software
-> Rack
-> (Select your server model)

Please check latest information and versions on ESMPRO portal site before using NEC ESMPRO Manager, NEC ESMPRO ServerAgentService and Express Report Service / Express Report Service (HTTPS) / Express Report Service (MG).

< <https://www.58support.nec.co.jp/global/download/> >
-> ESMPRO

● About Starter pack

Please see the following website to check the latest Starter Pack.

< <https://www.58support.nec.co.jp/global/download/> >
-> Document & Software
-> Rack
-> (Select your server model)

● About service and driver modules for VMware ESXi

Please see the following web site to check the latest modules.

1. Agentless Management Service and iLO Channel Interface Driver

< <https://www.58support.nec.co.jp/global/download/> >
-> VMware

2. WBEM Provider and CLI tool

< <https://www.58support.nec.co.jp/global/download/> >
-> Utility

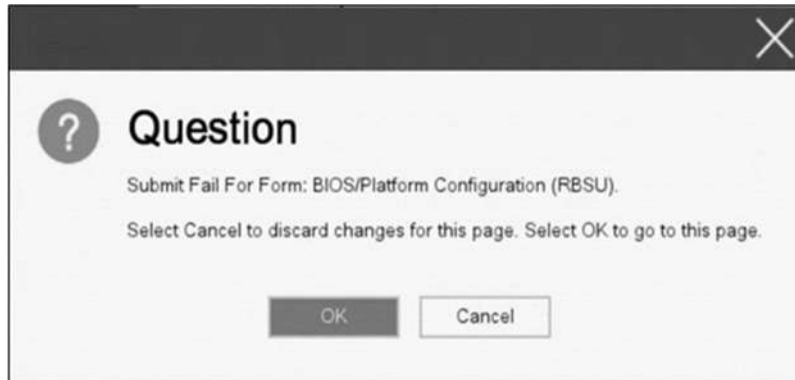
● Notice about service operation time of this product

The service operation hour of this product may require more hours than usual depending on the combination of the equipped firmware and driver.

2) Notice about the function of the System ROM

● Caution for the “Submit Fail For Form” Question pop-up

If you encounter the “Submit Fail For Form” Question pop-up while changing the configuration in the System Utilities, **discard the changes by pressing Cancel**. To apply the desired changes after that, reboot the server and re-enter the System Utilities. Selecting OK to continue the changes may cause some server settings such as Serial Number and Product ID to be lost.



● Caution for recovering from a Red Screen of Death (RSOD) screen

If you have changed the server configuration/settings or the system status, a Red Screen of Death (RSOD) screen appears in rare cases before starting up the OS. This may cause the server to become uncontrollable. However, the server may recover from the RSOD by turning off and then on the power again.

To recover from this condition, power off and then on the server again.

If the problem persists, contact your sales representative for maintenance.



● How to recover stop POST by the message of "Memory Initialization Start"

If the server stops POST by a message of "Memory Initialization Start", recover them by setting to the default value by SW6 of the system maintenance switch.

Refer to “Chapter 1 - 7.4.3 Set the System Configuration Back to Default Values” of the maintenance guide.

● About UEFI Serial Debug output on BIOS Serial Console

UEFI Serial Debug output could inadvertently be seen over BIOS Serial Console with System ROM v2.32 (03/09/2020). This issue would be seen periodically on server reboots. And, POST time will increase about 2 minutes.

This issue has been fixed in System ROM v2.34 (04/09/2020).

● Notes on the Server Configuration Lock (SCL)

- (1) Set SCL function to disabled and operate the system.
- (2) Set the password when the SCL function is enabled and keep the password in a safe place. If you lose your SCL password and it is locked by the SCL function (stopped before booting the OS), you will not be able to unlock it and you will not be able to boot the server OS again.

You will be charged for recovery / recovery to the bootable state.

If you lose your SCL password, there is no way to clear it.

- (3) When you will be requesting maintenance, it is necessary to disable the SCL function.
If you cannot be disabled the SCL function, **maintenance will be a charged one.**
- (4) Set "Halt on Server Configuration Lock failure detection." option to disabled and operate the system. If it was enabled, when the SCL function detects an unrecoverable condition and is locked (stopped before the OS boots), the system utility will not be able to start and the server configuration lock will never be disabled.

You will be charged for recovering to the bootable state.

Unrecoverable conditions of SCL function:

- When the server boot is locked by the SCL function due to change in the RBSU settings.
- When the server boot is locked by the SCL function due to the update of firmware, and the original firmware version cannot be restored.
- When the server boot is locked by the SCL function due to a failure of the DIMM or PCI option card

● Notice of the backup and restore of RBSU Settings by RESTful interface tool.

In the case of iLO5 firmware version 2.40 or later, backup and restore of RBSU Settings should be done from "Backup and Restore Settings" menu under System Utilities. (See "Backup and Restore of RBSU Settings" in Maintenance Guide (Common).)

● About change of specification in Fault tolerant memory function (ADDDC)

Specification of the Fault tolerant memory function (ADDDC) has been changed by firmware update. Change points are below.

- For the system ROM version 2.04 (04/18/2019) or later
Even if the system has other than 8 or 12 DIMMs per channel but has the fault tolerant memory function (ADDDC) available configuration, the system will change its setting automatically and starts to use this function.
- For the system ROM version 2.10 (05/21/2019) or later
 - The Fault tolerant memory function (ADDDC) can be used even if the amount of RANK number per channel does not exceed 2.
 - N8102-709 becomes ready for use of the fault tolerant memory function (ADDDC).

● About the internal DVD-ROM (N8151-137/138) display

Embedded SATA Configuration setting (* 1) is set to [Smart Array SW RAID Support], two internal DVD drive information is displayed in the Disk Utilities menu (* 2) depending on the operating environment.

Both can refer to the same internal DVD information.

(*1) 「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Storage Options > SATA Controller Options > Embedded SATA Configuration」

(*2) 「System Configuration > HPE Smart Array S100i SR Gen10 > Disk Utilities」

● Factory settings on the following items of BIOS/Platform Configuration (RBSU) are as below.

1. System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Workload Profile : Custom
2. System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Power and Performance Options > Minimum Processor Idle Power Core C-State : No C-states
3. System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Power and Performance Options > Minimum Processor Idle Power Package C-State : No Package States

- **"IPMI Watchdog Timer Timeout" may be logged in the iLO event log (IEL)**

When System ROM is v2.62 (03/08/2022) and the **IPMI Watchdog Timer** option is set to **Disabled** (factory setting), the following "IPMI Watchdog Timer Timeout" may be logged in the IEL:

iLO IPMI Watchdog Timer Timeout: Action: None, TimerUse: 0x44, TimerActions: 0x00.

Event Class: 0x23

Event Code : 0xB3

Recovery procedure:

This problem will be solved by exercising either of the recovery options (A or B) described below.

Recovery option A

1. Power off the server. Then disconnect the plug from the outlet.
2. Wait for 30 seconds. Then plug the server into the outlet again.

Recovery option B

In System Utilities, change the setting of the **IPMI Watchdog Timer** option two times as follows:

1. Power on the server.
2. During the POST, press the F9 key to start System Utilities.
3. In **System Configuration**, select **RBSU > System Options > Server Availability**. Then set the **IPMI Watchdog Timer** option to **Enabled**.
4. Press the F12 key, save the change, and then restart the system.
5. During the POST, press the F9 key to start System Utilities again.
6. In **System Configuration**, select **RBSU > System Options > Server Availability**. Then set the **IPMI Watchdog Timer** option to **Disabled**.
7. Press the F12 key, save the change, and then restart the system.

- **About the System Utilities and One-Time Boot Menu display**

- (1) To protect the change permissions on the menu under BMC Configuration Utility, enable BMC Configuration Utility > Setting Option > Require user login and configuration privilege for BMC Configuration.

It isn't protected by setting of BIOS/Platform configuration (RBSU) > Server Security > Set Admin Password.

- (2) The Maximum Size and Installed Size of L2 and L3 cache in "System Information > Processor Information" are indicated by the values that a 1 MB to 1048576 bytes.

- (3) In the PCIe Device Configuration menu of BIOS/Platform Configuration (RBSU) (*) and in One-Time Boot Menu, the name of a RAID controller may not be correctly displayed on the following conditions:

- For N8103-189, N8103-190, N8103-191, N8103-192, N8103-193, N8103-194, N8103-195, N8103-196, N8103-197, N8103-201, N8103-237, or N8103-238

The above problem occurs if both of the following conditions are met:

1. The version of the RAID controller firmware is v4.11 or higher, or v3.01.04.072 or higher.
2. The version of System ROM is lower than v2.68 (07/14/2022).

However, the problem does not affect a boot from the HDD/SSD managed by the RAID controller.

* Select BIOS/Platform Configuration (RBSU) > PCIe Device Configuration.

● About the PCIe Slot X MCTP Broadcast Support menu (X is PCIe Slot number)

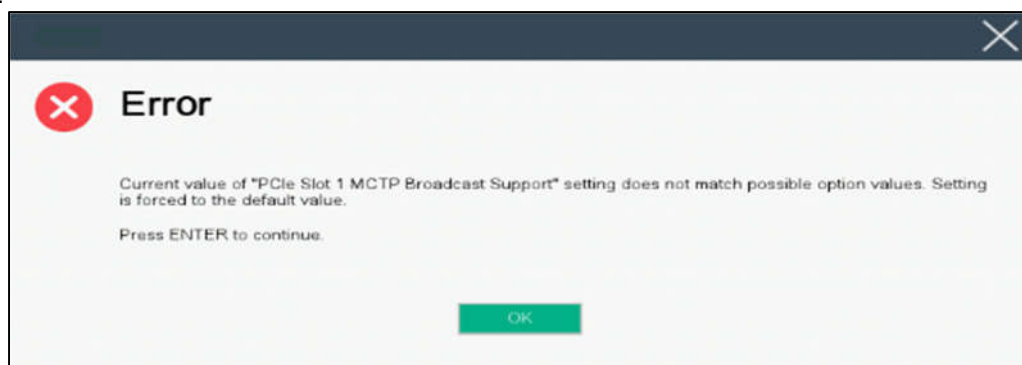
In the device with the system ROM version v2.10 (05/21/2019) or later, when the PCIe MCTP Options menu is selected (as described in *1 below) for the first time, the pop-ups (*2) informing that the settings for the device will be forcibly set to default will be displayed as many as the number of settable PCIe slots.

Meanwhile, in the device with the system ROM of the following versions, when the settings are tried to be saved, the pop-up (*3) appears and the settings are not saved. As a result, the pop-ups (*2) will be displayed as many as the number of the PCIe slots every time this menu is displayed. In this case, MCTP Broadcast always operates in an enabled state.

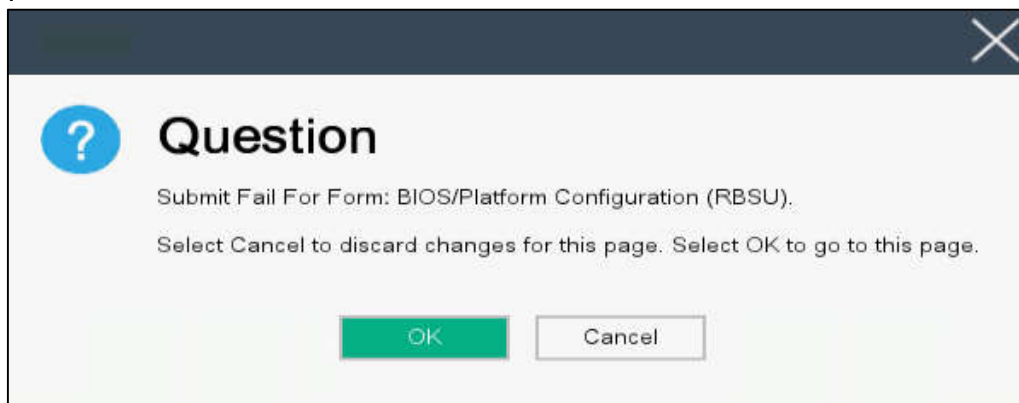
- v2.22 (11/13/2019)
- v2.30 (02/11/2020)
- v2.32 (03/09/2020)

*1 : System Configuration > BIOS/Platform Configuration(RBSU) > PCIe Device Configuration > Advanced PCIe Configuration > PCIe MCTP Options

*2 :



*3 :



● About set value of Extended Memory Test option

When System ROM Version is v2.36 (07/16/2020), Extended Memory Test option is set to "Disabled" automatically after a system reboot.

System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Memory Options > Extended Memory Test

3) Notice about the function of the iLO5

● Caution about Reset iLO

Do NOT Reset iLO during the period from server boot start to the completion of OS boot. This period includes the execution of POST (Power On Self Test)
Do NOT Reset iLO while users are using the System Utilities.

Under such circumstances, restarting the iLO may cause unexpected result.
For example, while changing options of the System Utilities, Reset iLO may lead to loss of server settings such as Serial number and Product ID. If the iLO is reset during POST execution, the screen display of UUID and UUID logic in iLO Web Interface : [Information] - [Overview], may be corrupted. Please turn off and turn on the power this product.

iLO Resets which is subject to this caution

- Reset iLO via network such as iLO Web interface
- Reset iLO via UID switch

* Refer to Caution for operating “BMC Configuration Utility” in the System Utilities below, for the cases where iLO is reset after changing the settings in “BMC Configuration Utility” in the System Utilities.

● Caution about iLO Downgrade Policy

In case that iLO License for Remote Management is installed, Do NOT set “Permanently disallow downgrades” in [Security] - [Access Setting] - [Update Service] - [Downgrade Policy] setting.

If the setting “Permanently disallow downgrades” is set, downgrade of any firmware cannot be done afterward. The setting of this “Permanently disallow downgrades” is permanent and irreversible, and users cannot change this setting from any iLO interfaces or any utilities.

This setting cannot be removed by setting “Set to factory defaults” and the setting “Permanently disallow downgrades” is kept unchanged.

● Caution about iLO security function

 is always displayed in [Information] - [Security Dashboard] and in iLO Web interface screen.

Depending on the setting of RBSU or iLO, the status of security may be displayed in red showing security is at Risk. Please set security settings appropriately in order to follow customer's security policy.
For the recommended settings, please review the iLO5 User's Guide.

For the settings of “Require Host Authentication”, please refer to the other descriptions of **Caution for the case where Admin Password is set from System Utilities(*1), or the case where the setting “Require Host Authentication” is enabled from iLO Web interface(*2).**

The matching condition is different by iLO5 Firmware version.

iLO5 Firmware	matching condition(s)
Version 1.40	(*1), and (*2)
Version 1.43 and later	(*2)

The iLO security icon on the right upper portion of Web interface may be transparent even if “Overall Security Status” of [Security Dashboard] is “Risk”.

“Overall Security Status” of [Security Dashboard] indicates the current security status.

● Note About Rapid Setup

If you are using the iLO5 firmware 2.71 or 2.72:

Before using Rapid Setup for configuring the Smart Array SW RAID on your system, open the iLO web interface, go to [System Information] > [Device Inventory], and then confirm that "Status" of Smart Array S100i SR is "Enabled". During a POST after that, press the F10 key, select [Provisioning] > [EXPRESSBUILDER], and then run Rapid Setup.

If "Status" is "Unknown", running Rapid Setup may display "Preparing recommended RAID configuration" and then the following message:

- "Rapid Setup did not find any supported disk installed on this system.
Either there is no disk installed, or there is a cabling or other problem.
Please exit Rapid Setup and check your hardware configuration."

● Possible high-speed fan rotation and abnormal sound

If you are using the iLO5 firmware 2.90 or later

Restarting the server can on rare occasions rotate the fan at high speed and emit an abnormal sound.

If this state continues for more than seven minutes, restart the server again.

● SNMP Alert

If you are using the iLO5 firmware 3.00 or later

For NEC ESMPRO Manager, the Alert Viewer notifies you of a change in a physical-drive status when it is detected. Depending on the status, the location information is displayed in either of the following two patterns:

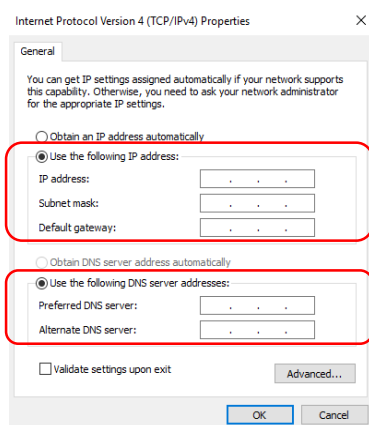
1. (Location: Slot=(A):Port=(B):Box=(C):Bay=(D) Controller: <NULL>)
2. (Location: Port=(B):Box=(C):Bay=(D) Controller: Slot (A))
 - A: Controller location (slot number)
 - B: The port number of the physical drive
 - C: box number of the physical drive
 - D: The bay number of the physical drive

● Notes on changing configuration of CPU board after setting up Windows Server 2019/2016/2012 R2

- 1) When a fixed IP address or DNS is set for the following options, add a CPU board by the following procedure.
(The procedure is necessary to take over the fixed IP address setting even after the CPU expansion.)

N8104-173 Dual Port 10GBASE-T LOM Card
N8104-177 Dual Port 25GBASE SFP+ LOM Card
N8104-182 Dual Port 10GBASE-T Adapter (2ch)
N8104-183 Dual Port 10GBASE-T Adapter (2ch)
N8104-185 Dual Port 10GBASE SFP+ Adapter
N8104-187 Dual Port 25GBASE SFP28 Adapter
Expanded PCI Card with PCI-to-PCI bridge

- a) Change settings such that the service that refers to the relevant option does not start up automatically and stop service. In addition, when the storage is connected to the option, remove the LAN cable from the option before the following work so that the option does not recognize the storage.
- b) When setting LAN teaming at the option, cancel teaming.
- c) Record IP address of the options / sub netmask / default gateway / preferred DNS server / alternate DNS server (the parts in the red frames below.)



- d) Change the settings of the option as follows: “Obtain an IP address automatically”, for IP address and “Obtain DNS server address automatically.” for DNS address.
- e) Follow the user’s guide to add a CPU board.
- f) Set IP address /sub netmask / default gateway / preferred DNS server / alternate DNS server, which are recorded in Step c), to the option.
- g) Set LAN teaming again.
- h) Set up again the service whose setting was changed in Step a) so that the service starts automatically. When the option is connected to storage, connect the LAN cable again such that the option can recognize the storage.

Tips

If you do not follow above procedure, a message appears, telling for example, that the fixed IP address is used by another device, and you may not be able to set a fixed IP address.

In that case, execute the commands below by command prompt and boot the device manager. Then, click [View] - [Show hidden devices] and expand the network adapter tree, and then delete the grayed out devices that are not in use.

```
>set devmgr_show_nonpresent_devices=1  
>Start DEVMGMT.MSC
```

- 2) When you refer to network of NEC ESMPRO Manager, a duplicate network card will be displayed after the configuration of the expanded CPU board is changed CPU processor kit. Please ignore the network device that is not displayed on the OS, and the detail information of the network device will be displayed as “Unknown”.

- **Cautions on using Linux OS**

Use the device name of LOM or optional NIC which the OS automatically recognizes. When adding a unique udev rule, do not change or fix the NIC device name based on the PCI address.

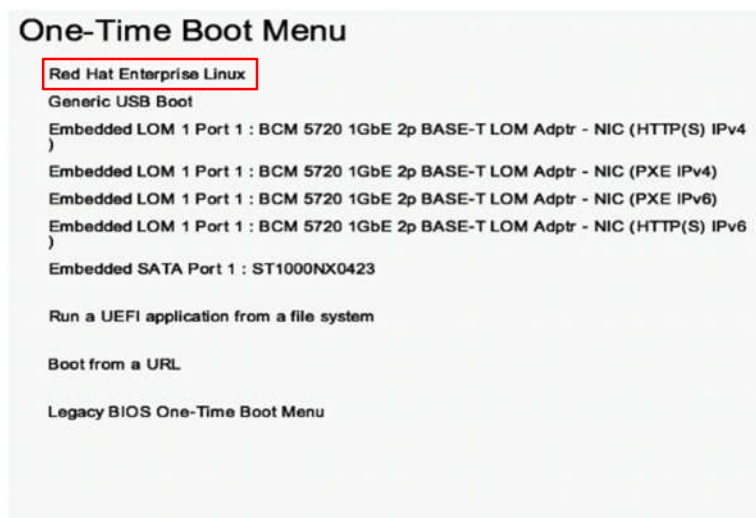
In addition, do not use the storage device name under /dev/disk/by-path/ that includes the PCI address.

If operation using a device name based on the PCI address is required, do not add/remove the card to/from the PCI slot, or change the CPU configuration. If the PCI bus address information changes and the name of the PCI-connected device is affected, you may not be able to access the network or storage, and the system may not boot normally.

- **Cautions on using Red Hat Enterprise Linux 8.5 or earlier**

Select "OS Boot Manager" when booting OS from "One-Time Boot Menu".

Selecting an OS boot device such as HDD/SSD on the "One-Time Boot Menu" may cause RSoD (Red Screen of Death).



One-Time Boot Screen

5) Notice of the function in general

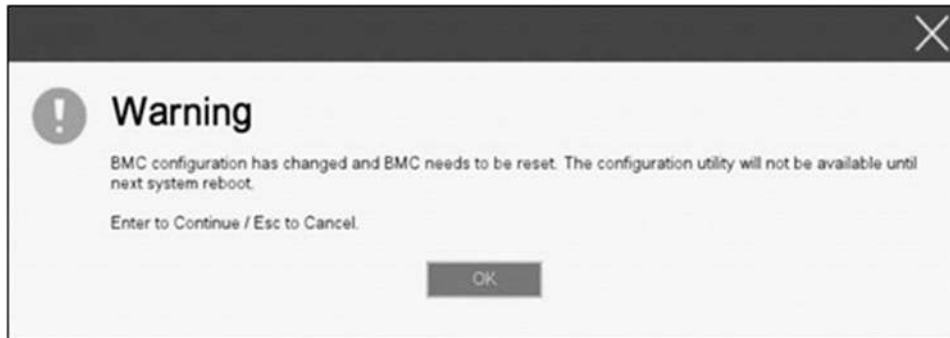
● Caution for operating BMC Configuration Utility in the System Utilities

If you execute POST or change the BMC configuration while rebooting the iLO, some server settings such as Serial Number and Product ID may be lost.

In addition, there is a possibility that it does not operate normally in the restart process immediately after.

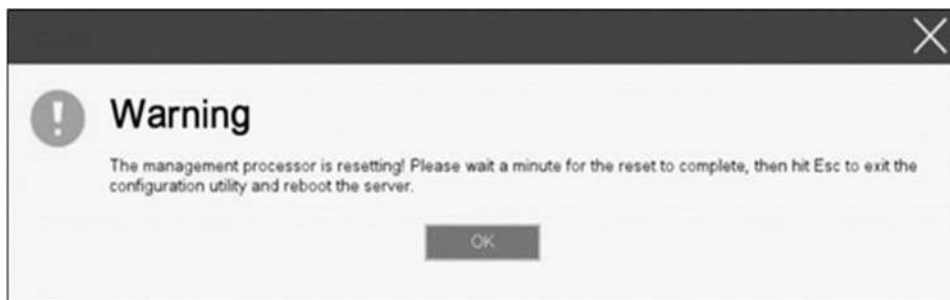
To avoid this trouble in rebooting the iLO, follow these steps:

- (1) In the System Utilities, changing the settings of BMC Configuration Utility may display the following pop-up before rebooting the iLO:



- (2) Press OK to proceed.

- (3) The iLO will start to reboot and then the following pop-up appears:



- (4) Leave this pop-up at least for one minute.

- (5) Confirm if the iLO reboot is completed.

※the iLO is restarting : the Status LED flashes in green (once per second) the iLO is operating normally through the restart completion : the Status LED lights in green.

- (6) If the confirmation succeeds, press OK to proceed.

- (7) Press the ESC key several times to return to the top screen of the System Utilities.

- (8) From the top screen, select Reboot the System to reboot the server.

● How to recover lost Serial Number and Product ID

If the server loses Serial Number and Product ID, recover them as follows:

- (1) Power off the server. Then disconnect the plug from the outlet.
- (2) Wait 30 seconds. Then plug the server into the outlet again.
- (3) Turn on the server with the POWER button.
- (4) The server starts up and the POST screen appears.

- (5) Press the F9 key to enter the System Utilities.
If this fails, initialize the RBSU settings with the system maintenance switch (refer to "Chapter 1 7.4.3 Set the System Configuration Back to Default Values" of the maintenance guide).
- (6) Check the values of Serial Number and Product ID by selecting the menu of the System Utilities: System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Advanced Options > Advanced Service Options.
- (7) If the values of Serial Number and Product ID are satisfactory, go to step 14.
- (8) If the values are unexpected or lost, select the menu of the System Utilities: System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Default Options.
- (9) Select the Restore Default Manufacturing Settings option.
- (10) Select this option: Yes, restore the default settings.
- (11) The server restarts automatically and the POST screen appears.
- (12) Press the F9 key to enter the System Utilities.
- (13) Set the proper Serial Number and Product ID (indicated on the pull-out tab of the server) via the menu of the System Utilities: System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Advanced Options > Advanced Service Options.



【Important】 Product ID is the model number like "N8100-2773F". Product ID is not PID.

- (14) If the RBSU settings have been changed from the defaults, check and configure the new values.

● Note on using UPS

- When connecting UPS to a serial port, set the items to "Disabled" in the following settings as below:
 - (1) System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Options > Serial Port Options > BIOS Serial Console and EMS > BIOS Serial Console Port → [Disabled]
 - (2) System Configuration > BMC Configuration Utility > Setting Options > Serial CLI Status → [Disabled]
 - If the N8181-160 (power supply unit [800W/Platinum]) is used by redundant configuration, change the following settings:
System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Power and Performance Options > Advanced Power Options > Redundant Power Supply Mode → [High Efficiency Mode (Auto)]
- ※ The customer set as High Efficiency Mode (Odd Supply Standby) or High Efficiency Mode (Even Supply Standby) is unnecessary for change above-mentioned.

- **About DisplayPort Connector**

DisplayPort Connector at the front is not supported.

- **About Wake On LAN function in N8104-173**

When using Wake On LAN function in N8104-173 (Dual Port 10GBASE-T LOM Card), use PORT1 for this function..

A) The additional options by firmware update

Some options are added or changed by firmware update of this product.

The additional options are listed below.

(1) Power and Performance Options Menu

When you select **System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Power and Performance Options** from the System Utilities, the Power and Performance Options menu appears.

For details about the additional options, see the table below.

Option	Parameter	Description
Energy Performance Preference	[Disabled] Enabled	Use this option to enable/disable Energy Performance Preference.

[]: Default setting

*1: an option usable with System ROM Version 2.80 or later.

(2) Server Availability Menu

When you select **System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Options > Server Availability** from the System Utilities, the **Server Availability** menu appears.

For details about the additional options, see the table below.

Option	Parameter	Description
IPMI Watchdog Timer *1	[Disabled] Enabled	Use this option to enable a Boot Time (POST) IPMI compliant Watchdog Timer (WDT) that is disabled when an IPMI command is issued to the system by the user and will not automatically be disabled.
IPMI Watchdog Timer Timeout *1	10 Minute 15 Minute 20 Minute [30 Minute]	Use this option to set the wait timer before performing the desired timeout action on the server in the event of a server lockup.
IPMI Watchdog Timer Action *1	[Power Cycle] Power Down Warm Boot	Use this option to set the timeout action upon expiration of the watchdog timer due to a server lockup.

[]: Default setting

*1: an option usable with System ROM Version 2.54 or later.

(3) Advanced Performance Tuning Options Menu

When you select **System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Power and Performance Options > Advanced Performance Tuning Options** from the System Utilities, the **Advanced Performance Tuning Options** menu appears.

For details about the additional options, see the table below.

Option	Parameter	Description
Processor Jitter Control Optimization	Optimized for Throughput Optimized for Latency [Zero Latency]	This option optimizes the thresholds used when the Auto-tuned function detects fluctuations in processor frequency. Optimized for throughput allows only the amount of fluctuations that doesn't impact overall compute throughput. Optimized for Latency allows for a very small amount of occasional fluctuations to occur before reducing processor frequency. Zero Latency attempts to eliminate any frequency fluctuations.

[]: Default setting

(3) Server Security Menu

When you select **System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Server Security** from the System Utilities, the **Server Security** menu appears.

For details about the additional options, see the table below.

Option	Parameter	Description
UEFI Variable Access Firmware Control	[Disabled] Enabled	Use this option to allow the system BIOS to completely control certain UEFI variables from being written to by other software such as an OS. When Disabled is selected, all UEFI variables are writable. When Enabled is selected, all changes made by software other than the system BIOS to critical UEFI variables will be blocked. For instance, new boot options the OS attempt to add to the top of BootOrder will actually be placed at the bottom of the Boot Order. Note: When UEFI Variable Access Firmware Control is Enabled, some OS functionality may not work as expected. Errors may occur while installing a new OS.

[]: Default setting

*1: an option usable with System ROM Version 2.54 or later.

(4) Advanced Trusted Platform Module Options Menu

When you select **System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Server security > Trusted Platform Module Options > Advanced Trusted Platform Module Options** from the System Utilities, the **Advanced Trusted Platform Options** menu appears.

For details about the additional options, see the table below.

Option	Parameter	Description
Omit Boot Device Event	[Disabled] Enabled	Use this option to record Omit Boot Device Event. If enabled, PCR Boot Attempt Measurements will be disabled and measurement in PCR[4] will not be recorded.

[]: Default setting

*1: an option usable with System ROM Version 2.80 or later.

(5) Advanced PCIe Configuration Menu

When you select **System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > PCIe Device Configuration > Advanced PCIe Configuration** from the System Utilities, the **Advanced PCIe Configuration** menu appears.

For details about the additional options, see the table below.

Option	Parameter	Description
PCIe Bifurcation Options	-	-
PCIe MCTP Options	-	-
PCIe Hot-Plug Error Control	[Hot-Plug Surprise] eDPC Firmware Control eDPC OS Control	For this option, do not change the setting from the factory shipped setting unless otherwise specified. Use this option to select PCIe (NVMe) Hot-Plug support for the platform. When Hot-Plug Surprise is selected, the platform will attempt to protect the platform from experiencing an error on a surprise removal event. This option should be selected for older OS that do not support Enhanced Downstream Port Containment (eDPC). When eDPC Firmware Control is selected, the platform firmware and OS will properly negotiate and log all hot-plug events. This option is currently not supported by all OS. When eDPC OS Control is selected hot-plug events are handled by the OS with no involvement by the platform. All logging of events in this mode will be limited to the OS only. It is important that this option be set properly based on the OS to ensure hot-plug events and surprise removal events are handled properly by the platform. Please consult OS documentation for additional details.

[]: Default setting

*1: an option usable with System ROM Version 1.52 or later.

i. PCIe MCTP Options

When you select **System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > PCIe Devices Configuration > Advanced PCIe Configuration > PCIe MCTP Options** from the System Utilities, the **PCIe MCTP Options** menu appears.

For details about the additional options, see the table below.

Option	Parameter	Description
PCIe Slot XX MCTP Broadcast Support	[Enabled] Disabled	Use this option to control the PCIe Management Component Transport Protocol (MCTP) Support for a given slot. This option can be used to disable MCTP support to a given PCIe endpoint that may not properly support this protocol. It is recommended that this option remain enabled for full system functionality. XX: 1/2/3... (XX appears as specific slot number by the processor or the riser card configuration.)

[]: Default setting

■ For Inquiries Regarding this Matter

If you have any questions on the contents of this document, please contact the dealer where you purchased the product or our sales representative.

NEC

Feb 2024 17th Edition